

# 地域みんなで取り組もう

## ジャンボタニシの被害を防ぎましょう！

(和名：スクミリンゴガイ)

ジャンボタニシ（和名：スクミリンゴガイ）の被害は、薬剤散布や耕種的な防除対策を組み合わせ、地域全体で取り組むことで軽減することができます。

### ジャンボタニシの特徴

在来のマルタニシは殻の高さが高いのに対して、ジャンボタニシは殻の直径と高さがほぼ同じで丸みを帯びており、成貝は5 cm程度に成長します。

ジャンボタニシ



長い触角が特徴



左：ジャンボタニシ

右：在来のマルタニシ

(稲に害は無い)

### ジャンボタニシの被害と対策



水の深い所に被害が集中する  
(4葉期までの柔らかい苗を食害)

田面を平らにして浅水管理  
(移植後2~3週間)



水口、水尻にネット(目合5~10mm)を  
設置して侵入防止



殻高 1.5~2.0cm の貝が 2.5 個/m<sup>2</sup>  
以上の時5%程度の減収になる



卵塊(ピンク色)は  
水中に払い落とす

貝は素手でさわらないこと

卵塊の除去、貝の捕殺が有効

# ～ジャンボタニシ対策7つのポイント～

## 1 越冬貝対策！厳寒期の耕うんと水路の泥上げ！

水がないとジャンボタニシは土に隠れます。寒さに弱く、冬の平均気温が高いと越冬貝が増えて翌春のイネに被害が発生しやすくなります。

- 厳寒期に田を乾かし、耕起する。貝を破碎し、越冬中の貝を寒気にさらす。耕うんは走行速度を遅くし、回転数を早くする。浅く細かく耕し、数回行うと殺貝効果が高い。
- 用排水路で越冬している貝の対策として泥上げを行う。地区全体で実施すると効果が高まる。

## 2 水田の取水口にネットを設置して侵入を防止！

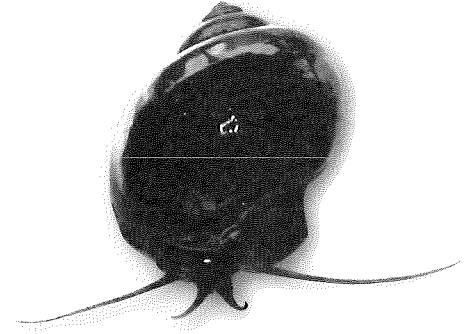
ジャンボタニシは水路や取水口から用水とともに侵入します。

- 水田の取水口に目合い5～10mmのネットを設置する。
- 畦畔を高くし、周辺の水田や水路からの貝の侵入を防ぐ。

## 3 常発地では移植を早めて食害を回避！

ジャンボタニシは気温が上昇すると活動を始め、柔らかい小さい苗（4葉期まで）を食害します。

- イネの移植時期を早め、苗を早期に大きくする。



## 4 移植後2～3週間は水深4cm以下の浅水管理！

深水ではジャンボタニシが活発に移動するため、被害が拡大しやすくなります。

- 深水部をつくらないように田面の均平をとり、代かきを丁寧に行う。
- 苗が4葉期に達するまで（移植後2～3週間）は水深4cm以下の浅水管理を行う。

## 5 薬剤防除で密度を下げる！

薬剤には、食べさせて殺貝する剤（食毒剤）や行動抑制等により食害を防止する剤があります。

- 食毒剤の前に食害防止剤を使用すると食毒剤の効果が発揮されない。食毒剤を本田処理する場合はパダンの苗箱処理を控える。本田で併用する場合は、食毒剤を処理してから7日以降に食害防止剤を処理する。パダンの苗箱処理は効果が十分でないことがあるので注意する。

表 主な防除薬剤

薬剤名	使用時期/使用回数	使用量	備考
（苗箱処理剤） パダン粒剤4	播種前又は移植当日／1回以内	60～100g/箱	食害防止
（本田施用剤） スクミノン	収穫60日前まで／2回以内	1～4kg/10a	殺貝（食毒剤）
スクミンベイト3	発生時	2～4kg/10a	殺貝+食害防止（食毒剤）
スクミハンター	収穫45日前まで／3回以内	1～2kg/10a	食害防止
キタジンP粒剤	本田初期／2回以内	3～5kg/10a	殺貝+食害防止
パダン粒剤4	収穫30日前まで／6回以内	4kg/10a	食害防止

（農薬登録情報は平成28年10月現在）

## 6 卵塊（ピンク色）の除去、貝の捕殺も有効！

貝、卵塊は見つけ次第捕殺します。用排水路清掃等、地区全体で実施すると効果が高まります。

- 貝は素手でさわらないこと。卵塊は産卵後早いうちに水中に払い落とすとふ化しない。

## 7 収穫直後に貝を耕うんで破碎！気温の高いうちに石灰窒素で防除！

○収穫直後等、田面が硬い時に耕うんすると貝の破碎効果が高い。

- 石灰窒素は、水温が15℃以上の時に湛水状態（水深3～4cm）にし、1～4日間放置して土中の貝を地上に移動させてから散布する（20～30kg/10a）。この後3～4日間放置して自然減水させる。石灰窒素は魚貝類に影響するので、河川などに流出、飛散させないこと。肥沃な水田で、翌年コシヒカリを栽培する場合は施肥設計に注意する。